



謹 賀 新 年



福岡県労福協
理事長 高島喜信

ましておめでとうございます。1年中の福岡県労福協に対し、特別のご支援・ご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

私は、一般社団法人として3年目を迎え、公益目的事業計画を着実に推進するため諸事業を展開してきました。また一方で、最も共助を必要とする人たちが、共助の仕組みに参加できていないなど、依然として多くの課題もまた山積しています。

近年、国内においては、非正規雇用者が全体の4割を超え、さらに労働者保護ルールの改悪が進められています。非正規労働者、リストラなどで職を失った人たち、無年金・低年金で生活保護に頼らざるを得ない高齢者の方など、そうした人々へ、どのようにして共助の輪を拡げていくのか、私たちは真剣に考え、具体化していく事が大事です。そうした中、昨年4月、生活困窮者自立支援法が施行され、新たなセーフティネットがスタートしました。この制度を最大限に活用し、地域づくりにも連動させ、支援の輪をつくりあげていくことが期待されています。

また、ライフサポート活動も、さらに深化させていく必要があります。人材育成や財政基盤など様々な課題を抱えていますが、生活協同組合やNPOなど多くの団体とネットワークを広げ、働く人・地域の人たちの拠り所として機能を強化していきたいと考えています。

今、政府から2020年を目標に、アベノミクスの新三本の矢で、GDP 600兆円という数字が華々しく打ち上げられていますが、残念ながら雇用の劣化は加速する一方で、貧困の削減目標も示されていません。

こんな情勢だからこそ、私たちの運動の真価が問われています。再度、労働者福祉運動の原点に立ち返り、運動を発展させ、その社会的役割をきちんと発揮していかなければならないと考えます。

本年も、「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向かって、確信をもって、共に頑張ります。



中央労福協会
会長 神津里季生

新年明けましておめでとうございます。

いま日本は、貧困や格差が拡大し、社会の持続性が問われています。雇用の劣化は加速する一方で、中間層もやせ細り、若者・壮年・高齢者に至るまで、現在や将来の生活に不安を抱えています。とりわけ、次の時代を担う若者の多くが奨学金を借りざるを得ず、社会人としての出発点から数百万円の借金を背負って苦しんでいる事態をこのまま放置するわけにはいきません。社会全体で若者を支えていくため、給付型奨学金制度の導入・拡充や柔軟な返済制度への改善、教育費負担の軽減の実現に向けて広範な世論のうねりをつくっていくことが必要です。各職場において現在展開している署名活動に対して、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

昨年4月に施行された生活困窮者自立支援制度については、地域づくりとも連動させつつ、支援の内実をつくりあげていくことが、これからの課題となっています。働きがいのある人間らしい仕事ができる職場に変えていくことや、より包摂的な社会へと地域を変えていくという位置づけのもと、私たちも積極的に関わりながら、みんなで地域に根付いた制度へと育てていくことが必要です。また、地域におけるライフサポート活動をさらに深化させ、様々な団体とのネットワークを広げ、働く人、地域の人たちの拠り所としての機能を強化していきましょう。

中央労福協は、持続可能な社会をめざし、再分配機能の強化や社会的セーフティネットの充実など「公助」機能の強化を求める運動とあわせて、自ら「共助」機能の発揮を強める運動を、車の両輪として進めてまいります。これまでの労福協運動の原点をしっかりと継承・発展させ、労働組合と労働者自主福祉団体、協同組合との連携を強固なものにし、職場に、地域に、共助の輪を広げていくことが求められています。

「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」に向けて、ともに前進しましょう。





福岡県知事
小川 洋

新年あけましておめでとうございます。

福岡県労働者福祉協議会の皆さまには、日ごろから労働者福祉の向上にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

福岡県の経済は、有効求人倍率が過去最高の水準で推移するなど、緩やかに回復しつつあります。この回復をしっかりとしたものにし、県内各地の皆さまに回復を実感していただけるよう全力を挙げて取り組みます。このため、県の基幹産業である自動車産業の振興に加え、将来の成長と雇用が見込まれる水素エネルギー、ロボット、医療、福祉機器、バイオ、航空機などの先端成長産業の育成を図るとともに、企業の本社機能の誘致を進めます。

福岡県は、人口が増え続けている数少ない県の一つです。今後予想される人口減少に一定の歯止めをかけ、誰もが住み慣れたところで働き、安心して暮らしていける地域を目指し、昨年12月に「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」を策定しました。この戦略に掲げた「新たな雇用創出1万人」、「理想とする子供の数の実現」などの目標と、就任以来取り組んできた「県民幸福度日本一の福岡県」の実現に向け、各施策に取り組んでいきます。

また、若い世代の夢と希望をかなえるため、男女の出会い、結婚、出産、子育て、就職・仕事の各ライフステージで、きめ細かな施策を推進します。

本年が、皆さまにとりまして、素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。



福岡県生協連
会長理事 宮崎正義

新年あけましておめでとうございます。

福岡県労働者福祉協議会の会員の皆さまには、日頃より「ふくし情報でんわ」等の共同利用につきまして、多大なご協力をいただいていることに感謝とお礼を申し上げます。

福岡県生協連はこの一年間、東日本大震災被災者支援の取り組み、ポスト IYC（国際協同組合年）の取り組み、消費者被害防止と消費者行政の推進、食の安心・安全を求めている取り組み、消費者被害防止と消費者行政の推進、食の安心・安全を求めている取り組み、大規模災害に備えた取り組み、核兵器の廃絶に向けた取り組み等を重点的に進めてまいりました。

東日本大震災は発生から5年が経過しましたが、復興に向けては未だ道半ばであり、被災地では未だ多くの支援を必要としています。今年度も引き続き会員生協、全国の生協とも力を合わせ、復興支援の取り組みを進めます。

昨年は、被爆・終戦70年目であり、またNPT（核不拡散条約）再検討会議の年でした。再検討会議では残念ながら最終文書を採択できませんでした。生協は、引き続き平和の取り組み、さらに核兵器廃絶の実現をめざす市民運動、世論形成、次世代への継承につなげる取り組みを進めます。

私たち生協は、組合員同士の互助・共助の力を基礎に、組合員に対する最大奉仕の原則を堅持しつつ地域社会の人たちとも協力しあって社会的責任をはたして行きます。

今年も旧倍のご厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



北九州総合労働会館
理事長 福島昭一

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、北九州総合労働会館（通称：真鶴会館）の事業運営に対しまして、事業団体・労働団体をはじめ、会員各位の皆様方に、ご支援とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

おかげさまで昨年の会館利用者数は、近年を上回ることができました。これは、インターネットによる会議室利用増加（謝恩会等、会議以外の様々な使い方を皆様のお知恵により広めていただいた）や、カルチャー教室が倍増したことによるものです。皆様からのお問合せや、様々な使い方等のお申し込みをお待ちしております。

昨年は、会館建屋の耐震診断を受け、避難場所としても使えるほどの頑丈さである結果に安著いたしました。事業運営としては皆様方に利用促進のお願いをするだけでなく、時代のニーズに合った事業展開が必要になってきていると考えています。そのため理事会内部の運営委員会で今後のあり方について検討を始めたところです。

このように厳しい状況は続いていますが、入館いただいております事業団体・労働団体の皆様をはじめ、勤労者・市民の皆様が安心して快適にご利用いただけますよう役職員一丸となって、最大限の努力をしております。本年も引き続き、真鶴会館に対しましてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



九州労働金庫福岡県本部
本部長 山城正一

新年あけましておめでとうございます。多くの皆さんに支えられていることに改めて感謝申し上げます。

九州労働金庫の理念・役割は、「働く人の夢と共感を創造する」協同組織であり、かつ金融を通じ安心して使いやすい商品を提供し、生活の安定に寄与していくことにあります。さらに福祉金融機関として、誠実・公正に会員の皆さんと連携していかなければなりません。

今、九州における金融市場環境は、地方銀行の合併をはじめ、低金利環境下での顧客の争奪が激しさを増し、労働金庫はその大きな渦の中で、まさに生き残りをかけた事業を展開しています。

一方で、会員・組合員の皆さんからは、「もっと労金らしさを出しなさい」「もっと社会や会員に貢献しなさい」、と叱咤激励をいただきます。そうした声を、真摯に受け止めなければ労働金庫の存在意義はなくなっていくでしょう。私を含めた役職員一同、労働金庫としての姿勢や仕事を厳しく見つめ直し、新たな気持ちでチャレンジし続けたいと決意しているところです。

新しい年を皆さんとともにスタートできることに喜びを感じつつ、新年の挨拶とさせていただきます。

今年もよろしくお祈りいたします。



全労済福岡県本部
本部長 品川浩二

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、全労済の諸活動に対しましてご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年(2015)の8月25日に九州北部を縦断した台風15号は、福岡県の広い範囲で猛威を振るい、家屋の損壊など多くの傷跡を残しました。

福岡県本部でも、3,500件を超える被災連絡を受け付け、各都道府県本部からの全国支援体制をとりながら被災物件の調査活動を進めたところです。被災された方々に改めてお見舞い申し上げますとともに、ご協力を頂きました協力団体の皆さまに感謝いたします。

全労済は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」を信条に掲げ、半世紀以上に亘る活動を組合員・協力団体の皆さまと共に展開してまいりました。今後におきましても、この理念・信条は不変であり、常に組合員・協力団体の皆さまから信頼・選択いただけるよう、福岡県本部役職員一丸となって精一杯努力してまいりますので、引き続き格別のご理解とご支援をお願い致します。

結びに、組合員・協力団体の皆さまにとって、本年が素晴らしい一年となることをご祈念申し上げ、福岡県本部役職員を代表しての年頭のご挨拶と致します。

ZENROSAI NEWS

謹賀新年

本年も全労済を
宜しくお祈り申し上げます

全労済福岡県本部
(福岡県労働者共済生活協同組合)

本部長
品川 浩二

副本部長
石川 和正

副本部長
角田 昭一

副本部長
矢田 信浩

専務執行役員
岩木 克明



保障のことなら 〒810-8611
全労済 福岡市中央区舞鶴1-1-7
TEL 092-739-6100

全国労働者共済生活協同組合連合会 <http://www.zenrosai.coop>

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

40152012

謹賀新年

本年も九州ろうきんを
宜しくお祈り申し上げます。

九州労働金庫福岡県本部

本部長 山城 正一

役職員一同



つかえるろうきん みんなのろうきん **九州ろうきん**

<http://kyusyu.rokin.or.jp/>

九州ろうきん

賀 新 年

連帯・協同で安心・共生の
福祉社会をつくるため
本年も頑張ります。



北九州地域労働者福祉協議会

会 長 小 原 朝 広
事務局長 遠 藤 禎 幸
職 員 森 谷 尚 美



京築・田川地域労働者福祉協議会

会 長 西 本 竜 二
事務局長 安 藤 正 宣
職 員 藤 野 勢 津 子



遠賀川地域労働者福祉協議会

会 長 川 畑 哲 実
事務局長 寒 竹 準 一
職 員 藤 木 千 佳



福岡地域労働者福祉推進協議会

会 長 石 堂 高 大
事務局長 桑 原 忠 志
職 員 桑 野 小 代 里



筑紫・朝倉地域労働者福祉協議会

会 長 森 田 誠 一
事務局長 原 豊
職 員 丸 山 よし子



北筑後地域労働者福祉協議会

会 長 鹿 田 哲
事務局長 大 石 淳
職 員 良 永 礼 子



南筑後地域労働者福祉協議会

会 長 津 田 耕 二
事務局長 本 田 賢 治
職 員 浦 濱 明 美

本年も宜しくお願い申し上げます。

福 祉 募 金

日頃のご支援に感謝申し上げます
本年も何卒ご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

取組期間：2015年12月1日～2016年3月31日

〔目的〕 心身ともにハンディキャップを背負いながらも、自立と社会参加をめざす人達の福祉向上と、支援の輪を広げていくことを目的とします。

2014年度の実績では
7,420,258円の浄財が
集まり、県内の施設へ
必需品を寄贈しました。

平成二十八年 元旦	お願い申し上げます	職員	監	理	専務理事	副理事長	副理事長	理事長	一般社団法人 福岡県労働者福祉協議会役員
			事	事		(代行)			
			小森田	田井	深町	品川	山城	高島	
			紀子	久二	裕二	浩二	正一	喜信	
			中村隆一	染井孝二	田井孝二	品川浩二	山城正一	高島喜信	
			安藤正志	岩崎和久	桑原忠志	伊藤正一	寒竹準一	本田賢治	
			伊藤正志	岩崎和久	桑原忠志	伊藤正一	寒竹準一	本田賢治	
			伊藤正志	岩崎和久	桑原忠志	伊藤正一	寒竹準一	本田賢治	
			伊藤正志	岩崎和久	桑原忠志	伊藤正一	寒竹準一	本田賢治	